

# 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年 10月14日

佐久市教育委員会

## 1 調査の概要

- (1) 調査日 令和3年 5月27日(木)
- (2) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生、学校
- (3) 調査内容
  - ① 児童生徒に対する調査(小学校6年・中学校3年)

- 教科に関する調査：国語、算数(数学)

※令和元年(平成31年度)より新学習指導要領の考え方に即し、従来の「知識に関する問題」、「活用に関する問題」に区分した扱いを見直し一体的に調査問題を改定された。更に新学習指導要領が導入されたことから、評価観点も改訂、「知識・技能」、「思考・判断・表現」で子どもたちの学力を推し量る方向となる。

「英語」「理科」については、従来通り3年に一度の調査。

- 学習意欲、学習環境等に関する調査(児童・生徒質問紙)
- ② 学校に対する調査(学校質問紙)

## 2 教科に関する調査 ◎平均正答率、①領域や観点から、②正答分布状況、③詳細の状況・課題

### (1) 小学校国語

- ◎ **全国と比べ、「同じ」である。**

- ① 領域別・観点でも**全国と比べ「同等」**の範囲にある。
- ② [正答分布状況] 出題数14問中、8～11問等の上位にかけて多い分布。
- ③ 評価観点の「知識・技能」で、学年に応じた漢字を正しく使うことや、「思考・判断・表現」の目的に応じた文章構成を理解し、要約した上で目的や意図にそって自分の考えを明確にして答える問いなどの「読むこと」の領域に課題が見られた。多様な文章・書物に親しみ、「読解力」を育むと同時に「自分の考えを持ち、まとめる」等の力を高めていきたい。

### (2) 小学校算数

- ◎ **全国と比べ、「同じ」である。**

- ① 領域別においても**全国平均と「同等」**の範囲にある。
- ② [正答分布状況] 16問中11～15問正答する上位にかけて多い分布。
- ③ 細かな領域・単元で見ると、「図形」単元の基礎的な知識を活用する問いに対しての正答率は高いが、応用問題等、複数の事柄が組み合わせられた出題問題に対しての正答率が低く、応用力に課題が見られた。また、資料や表を読み取り解答する問題や数学的思考を用いて筋道を立て説明する記述問題を苦手としている傾向が見られた。

### (3) 中学校国語

- ◎ **全国と比べ、「同じ」である。**

- ① 領域では「話す・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は**全国平均と同等**の範囲にある。「国語の特質に関する事項」は「やや上回る」範囲にある。
- ② [正答分布状況] 14問中10～12問正答する上位に多い分布である。
- ③ 「言語についての知識・理解・技能」の観点では、具体的に「敬語の使い方」「語句の意味の理解」などで高い正答率をみせた。しかし、出題された説明文等を読み、設問に対

して自分の考えをまとめ答える問題での正答率が低い。「読解力」を含め、文章内容の要約し自分の考えを適切にまとめる学習を高める必要がうかがえる。

(4) 中学校数学

◎ **全国と比べ、「同じ」**である。

- ① どの領域の問題に対しても、全国・県平均をわずかながら上回り、全国平均と「同等」の範囲にある。特に「資料の活用」領域については、「やや上回る」範囲にある。
- ② [正答分布状況] 16問中10～12問正答する上位に多い分布である。
- ③ 「数と式」の領域で、出題された図表から数学的な考え方をういて読み取り、その法則性を説明する問題や「図形」領域の結論が成り立つための説明をする「記述」問題に課題が見られた。資料や表・グラフから結論に結び付く法則を発見する等の数学的な考え方をういて読み取る力や基礎・基本知識を活用して答えを導く「応用力」、「発想性」に乏しい。

### 3 学習状況等に関する調査

回答結果に国や県と著しく異なったものはないが、自校の子どもの生活実態としてわずかな特徴を大事に扱いたい。

(1) 小学校6年

- ① 「将来の夢や目標を持っていますか」に対し、82%の児童が「ある」と回答。目標を持った生活を目指している。
- ② 「自分の決めたことは最後までやり遂げるようにしている」という問いに86%の児童が「ある」と回答、成功感や満足感体験をしている姿が伺える。
- ③ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に13%程(児童数にして100人近く)の児童が良い回答をしていないことが気になる。
- ④ 「授業以外で普段、1日当たりどれくらい読書に費やす時間があるか。」という質問に、「全くしていない」も含め「10分以上30分より少ない」と回答している児童が全体の約61%。昨年度より4%増加。ここ数年増加傾向、読書離れが心配される。
- ⑤ 「授業で、課題の解決に向け自分で考え、自分から取り組んでいましたか」について、「できた」と回答した児童は36%。「主体的に学習に取り組む態度」を養う面で、まだまだ「子どもの主体性を大切にしたい授業」が定着していない様子が見られる。

(2) 中学校3年

- ① 「将来の夢や目標を持っていますか」に対し、71%の生徒が「ある」と回答している。
- ② 「家での勉強をあまり、または、全くしていない」と回答している生徒は42%。一昨年と同じ。一日の家庭学習(塾、家庭教師と関わる時間も含む)の時間では、「1～2時間以内」が最も多く43%。「1時間以内」は24%であった。この時期は学校からの課題でも出されないかぎり家庭学習に取り組まない生徒が多い現状。家庭で2時間以上ゲームをしている生徒は47%。家庭での半分はゲームに費やしている様子。
- ③ 読書について、普段1日当たり「30分以内」「やほとんどしていない」と回答する生徒は、昨年と同様全体の63%。内「全くしない」は25%であった。
- ④ 「新聞を読んでいますか」という問いに「ほとんど・全く読んでいない」と回答した生徒は66%でした。社会事象への関心がないこと。また、ネットにて情報を得ている場合も考えられる。
- ⑤ 「2年生までの授業で、課題解決にむけて自分で考え、自分から進んで取り組んでいたか」という問いに、「あてはまる」と回答した生徒は38%。「どちらかといえば当てはまる」までを入れると87%。主体的な学習を大切に進めている様子が見られる。

#### 4 改善の方向

各校、学力の課題は異なるので、以下に示す市全体傾向を基にした『授業改善の方向』はあくまで参考として、昨年度実施している CRT 検査から考察される課題も含め、子どもたちの課題を明確にしたい。そして、その要因を探る中で日常指導の何を見直し・改善していくべきかを的確に捉え、「学習力」の向上に努めながら、教科指導等の改善や豊かな人間性を育む取り組みへつなげていただきたい。

- (1) 【国語】「読むこと」「読解力」に課題が見られる。考えをまとめる力として「書くこと」の学習も含めた取り組みで考えたい。そこで、
  - ① 物語や説明文、報道文など多様な文を扱う中で、筆者の意図を考えながら、何がどのように書かれているか内容を読みとる学習を深め、学年に応じた「読解力」を高める学習を引き続き進める。その際、必要な情報をノートに書き留める活動や、教師の問いに対しての自分の考えを書きまとめる時間をしっかり確保・定着させるなどの積み上げ指導を大切にしていきたい。
  - ② 図書館を大いに利用する時間も設け、文学書籍の言葉に触れ表現語彙を増やす場だけでなく、資料や情報を得る場・自らの課題解決に近づけられる場であることを体感させたい。同時に読書に親しむ習慣も高められたらありがたい。
  - ③ 学んだ漢字を身につけさせるためにも、日常生活の中に「文章を書く」体験を多く取り入れ活用するよう環境を整えたい。
- (2) 【算数・数学】計算能力は高いが、資料や表・グラフを読み取りから式や値を求めることや、数学的な考え方をを用いて説明する等の力に課題が見られる。そこで、
  - ① 仲間の多様な考えや説明を聞き合う活動を通して、互いの考えのよさを取り込み、説明の質を高め、理解を深め本時のねらいに迫れるような授業改善や、応用につながる発展授業の授業づくりの工夫を図りたい。
  - ② 指導者が子どもの理解不足・つまずきを示している単元を洗い出し指導法の再検討を図る。そのためにも子どもの授業中の姿や発言に耳を傾けながら、学習定着の「見とどけ」を大切に見極め、毎時間の授業指導計画の改善や工夫に努める。
- (3) 【全体考察から大切にしたいこと】
  - ① どの子どもも安心して自分の思いが語れ、共に学び合える楽しさが味わえる学習集団・学級づくり・人間関係づくりに努める。その中で、ひとり一人の「社会性」を育てることを大切にしたい学級づくりを進めてほしい。
  - ② 子どもたちが、身を乗り出して興味をもって意欲的に学習に取り組む「魅力ある授業づくり」として、「問から始まる授業」を大切に工夫する。  
また、「魅力あふれる教師」を目指し、先生の一問一答に耳や目を傾ける、授業が面白い、進め方がわかりやすい、ひとり一人の発言や考えを大切にしてくれる等、子どもたちを主軸に据えた授業を進められる先生づくりを。
  - ③ 家庭と協働し規則正しい生活リズムや家庭学習の習慣化を図るなど生活環境づくりに努める。